



平成28年1月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成27年9月8日

上場会社名 株式会社きんえい 上場取引所 東
 コード番号 9636 URL http://www.kin-ei.co.jp
 代表者 (役職名) 取締役社長 (氏名) 丸山 隆司
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役経理部長 (氏名) 好井 裕一 (TEL) 06(6632)4553
 四半期報告書提出予定日 平成27年9月10日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成28年1月期第2四半期の業績(平成27年2月1日～平成27年7月31日)

(1) 経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年1月期第2四半期	1,643	△1.5	96	9.8	99	△3.2	58	13.1
27年1月期第2四半期	1,669	6.1	88	74.9	102	133.3	51	118.5

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
28年1月期第2四半期	21 07	—
27年1月期第2四半期	18 63	—

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
28年1月期第2四半期	4,700	1,730	36.8
27年1月期	4,981	1,698	34.1

(参考) 自己資本 28年1月期第2四半期 1,730百万円 27年1月期 1,698百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
27年1月期	—	0 00	—	10 00	10 00
28年1月期	—	0 00			
28年1月期(予想)			—	10 00	10 00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成28年1月期の業績予想(平成27年2月1日～平成28年1月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,310	1.2	180	19.2	180	9.5	90	14.2	32 26

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

- (1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	28年1月期2Q	2,821,000株	27年1月期	2,821,000株
② 期末自己株式数	28年1月期2Q	31,173株	27年1月期	30,972株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	28年1月期2Q	2,789,915株	27年1月期2Q	2,790,133株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

- この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期財務諸表	5
(1) 四半期貸借対照表	5
(2) 四半期損益計算書	7
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、円安、原油安の影響や各種政策効果もあって、企業収益や雇用情勢、所得環境の改善が進み、個人消費にも明るい兆しが見られるなど、緩やかな回復基調のうちに推移しました。

この間当社におきましては、事業全般に亘って顧客満足度のより高いサービスの提供に努めるとともに、部門別業績管理のさらなる徹底を図り、集客と収入の確保に努めました。

各セグメントの状況は次のとおりであります。

シネマ・アミューズメント事業部門におきましては、映画では“シンデレラ”“名探偵コナン”“ドラゴンボールZ”“ドラえもん”“暗殺教室”“ラブライブ!”“イントゥ・ザ・ウッズ”“ターミネーター：新起動”“バケモノの子”“アベンジャーズ2”などの話題作品を上映して観客誘致に努めました。また、全面開業から1年を迎えた「あべのハルカス」により阿倍野地区が全国的に集客力を増すなか、ハルカスにおける各種イベントと連携し積極的な広告宣伝活動や販売促進活動を展開する一方、映画会員制度「アポロシネマメンバーズ」の会員獲得に努め会員数20万人を達成したほか、リピーター顧客の確保にも力を注ぎました。このほか、本年4月には、計画的に推進中の座席交換工事を「スクリーン5」及び「スクリーン6」において完成するなど、劇場内の快適性向上に努力しました結果、全国興行収入歴代3位の大ヒット作品“アナと雪の女王”を上映した前年同期に迫る成績となりました。また、遊戯場事業におきましても、劇場事業と一体となった集客を継続して推進いたしました結果、この部門全体の収入合計は、前年同期に比較して3.9%減の767,827千円となり、営業原価控除後では13,975千円のセグメント利益（前年同期比30.2%減）となりました。

不動産事業部門におきましては、地下鉄御堂筋線天王寺駅などとアポロビル・ルシアビルを結ぶ地下連絡通路の照度向上及び美装工事を実施しイメージ向上を図ったほか、アポロビルにおいて、順次実施しているエスカレーター更新工事を地下1階から3階までの4基で完了し、地下2階及び地下1階の美装工事を実施しました。ルシアビルにおいても、地下1階で外気と直接つながっていた開口部に自動扉等を設置し、風圧の遮断と空調効率向上を図ったほか、防犯カメラ設備更新・増設工事を行い、より快適で安全なビルづくりを推進しました。また、劇場事業と連携した誘客活動を進めるとともに、賃貸収入の確保に向けて、ビル入居率の維持・向上を図るため、空室部分への後継テナント誘致に注力いたしました結果、駐車場収入等ビル付帯事業並びにその他の事業を含めたこのセグメント全体の収入合計は、前年同期に比較して0.7%増の876,084千円となり、営業原価控除後では217,811千円のセグメント利益（前年同期比1.2%増）となりました。

以上の結果、当第2四半期累計期間の売上高は、前年同期に比較して1.5%減の1,643,911千円となりました。一方、費用の面におきましては、全社において業績管理を徹底し、諸経費全般に亘って鋭意削減に努めました結果、営業利益は96,908千円（前年同期比9.8%増）となり、経常利益は99,162千円（前年同期比3.2%減）、四半期純利益は58,771千円（前年同期比13.1%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産、負債及び純資産の分析

当第2四半期会計期間末における総資産は、短期貸付金の減少等により前期末に比較して281,146千円減少し、4,700,289千円となりました。

負債は借入金の返済等により、前期末に比較して313,924千円減少し、2,969,453千円となりました。

また、純資産は、四半期純利益の計上により利益剰余金が増加したため、前期末に比較して32,778千円増加し、1,730,835千円となりました。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は財務活動による支出が営業活動による収入及び投資活動による収入を上回ったため、前事業年度末に比較して4,294千円減少（△4.9%）し、83,876千円となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動で得られた資金は、155,199千円で前年同期と比較して37,233千円増加しました。これは、法人税等の支払額の減少などによるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動で得られた資金は、短期貸付金の減少により、24,987千円となりました。短期貸付金の減少額が前年同期を下回ったため、82,304千円収入額が減少しております。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動で使用した資金は、長期借入金の返済額が短期借入金の増加額を上回ったため184,480千円となりました。前年同期と比較して、返済超過額が減少したため、44,030千円支出額が減少しております。

（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明

今後につきましては、10月に天王寺公園エントランスエリアがリニューアルオープンする予定であることから、阿倍野地区への来客もさらに増加することが見込まれます。シネマ・アミューズメント事業部門では、阿倍野地区唯一の映画館である「あべのアポロシネマ」への一層の誘客を目指し、「あべのハルカス」「あべのキューズモール」など周辺施設との共同販売促進策を推進いたします。映画会員制度「アポロシネマメンバーズ」については、新規会員のさらなる獲得に加え、様々な機会と手法による会員向けのきめ細かな情報提供により、興行収入の一層の増加を図ります。さらに、案内サイン及び音響設備を更新するなど、顧客サービスの充実に力を注いでまいります。

また、不動産事業部門におきましては、テナント入居率の維持向上による賃貸収入の確保に努めるのはもとより、アポロビルにおいてエスカレーター更新工事や美装工事を計画的に進めるとともに、袖看板のLED化を実施して視認性を向上させ、ルシアビルにおいても空調機更新工事及び防災設備更新工事を実施するほか、防犯カメラ設備更新・増設工事を継続するなど、引き続き両ビルの機能向上を図り、快適で安全な環境づくりに努めてまいります。加えて、劇場事業と一体となった周辺施設との連携を推進し、アポロ、ルシアス両ビルへのなお一層の集客に注力するなど、安定した経営基盤の確立に格段の努力を傾けてまいる所存であります。

通期の予想につきましては、売上高は3,310百万円（前期比1.2%増）、営業利益は180百万円（前期比19.2%増）、経常利益は180百万円（前期比9.5%増）、当期純利益は90百万円（前期比14.2%増）となる見込みであります。なお、平成27年3月12日に「平成27年1月期決算短信（非連結）」にて公表した業績予想から、売上高、営業利益及び経常利益は30百万円、当期純利益は10百万円をそれぞれ増額しております。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期財務諸表

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成27年1月31日)	当第2四半期会計期間 (平成27年7月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	88,170	83,876
売掛金	106,610	87,038
商品	3,641	3,416
その他	439,567	298,447
流動資産合計	637,989	472,778
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	2,106,872	2,092,744
機械及び装置(純額)	57,579	52,132
工具、器具及び備品(純額)	70,972	71,497
土地	1,123,748	1,123,748
有形固定資産合計	3,359,172	3,340,122
無形固定資産	47,885	39,525
投資その他の資産		
差入保証金	892,132	799,785
その他	44,255	48,077
投資その他の資産合計	936,388	847,863
固定資産合計	4,343,445	4,227,510
資産合計	4,981,435	4,700,289
負債の部		
流動負債		
買掛金	108,800	123,142
短期借入金	150,000	372,500
1年内返済予定の長期借入金	381,920	6,920
未払法人税等	44,917	43,279
賞与引当金	10,600	12,900
その他	534,092	416,455
流動負債合計	1,230,330	975,197
固定負債		
長期借入金	6,580	3,120
退職給付引当金	70,936	72,656
受入保証金	1,606,046	1,562,345
資産除去債務	279,895	282,018
その他	89,589	74,116
固定負債合計	2,053,047	1,994,256
負債合計	3,283,378	2,969,453

(単位：千円)

	前事業年度 (平成27年1月31日)	当第2四半期会計期間 (平成27年7月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	564,200	564,200
資本剰余金	24,155	24,155
利益剰余金	1,213,687	1,244,558
自己株式	△106,256	△106,876
株主資本合計	1,695,786	1,726,037
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	2,269	4,797
評価・換算差額等合計	2,269	4,797
純資産合計	1,698,056	1,730,835
負債純資産合計	4,981,435	4,700,289

(2) 四半期損益計算書

第2四半期累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成26年2月1日 至平成26年7月31日)	当第2四半期累計期間 (自平成27年2月1日 至平成27年7月31日)
売上高	1,669,492	1,643,911
営業原価	1,434,337	1,412,124
営業総利益	235,154	231,787
一般管理費	146,908	134,879
営業利益	88,246	96,908
営業外収益		
受取利息	1,283	630
受取配当金	121	133
工事負担金収入	-	1,749
違約金収入	2,649	1,500
受取和解金	15,287	-
雑収入	1,289	726
営業外収益合計	20,631	4,739
営業外費用		
支払利息	6,450	2,477
雑支出	9	7
営業外費用合計	6,459	2,485
経常利益	102,418	99,162
特別損失		
固定資産除却損	17,479	16,180
特別損失合計	17,479	16,180
税引前四半期純利益	84,938	82,982
法人税、住民税及び事業税	48,000	41,600
法人税等調整額	△15,034	△17,389
法人税等合計	32,965	24,210
四半期純利益	51,972	58,771

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成26年2月1日 至平成26年7月31日)	当第2四半期累計期間 (自平成27年2月1日 至平成27年7月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	84,938	82,982
減価償却費	177,020	167,128
退職給付引当金の増減額(△は減少)	2,724	1,719
受取利息及び受取配当金	△1,405	△763
支払利息	6,450	2,477
固定資産除却損	17,479	16,180
売上債権の増減額(△は増加)	12,612	19,571
その他の流動資産の増減額(△は増加)	△39,605	△15,456
仕入債務の増減額(△は減少)	1,616	14,341
その他の流動負債の増減額(△は減少)	△65,000	△88,897
その他	△10,599	309
小計	186,231	199,592
利息及び配当金の受取額	1,592	876
利息の支払額	△6,271	△2,374
法人税等の支払額	△63,587	△42,895
営業活動によるキャッシュ・フロー	117,965	155,199
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△135,023	△169,612
無形固定資産の取得による支出	△10,180	-
短期貸付金の増減額(△は増加)	340,283	162,010
差入保証金の回収による収入	-	92,346
差入保証金の差入による支出	△32,577	-
受入保証金の増減額(△は減少)	△43,680	△45,801
その他	△11,530	△13,956
投資活動によるキャッシュ・フロー	107,291	24,987
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の増減額(△は減少)	150,000	222,500
長期借入金の返済による支出	△350,460	△378,460
配当金の支払額	△27,901	△27,900
その他	△149	△620
財務活動によるキャッシュ・フロー	△228,511	△184,480
現金及び現金同等物に係る換算差額	-	-
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△3,253	△4,294
現金及び現金同等物の期首残高	78,152	88,170
現金及び現金同等物の四半期末残高	74,898	83,876

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期累計期間(平成26年2月1日から平成26年7月31日まで)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期 損益計算書 計上額 (注) 2
	シネマ・アミューズメント事業	不動産事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	799,237	870,255	1,669,492	—	1,669,492
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	799,237	870,255	1,669,492	—	1,669,492
セグメント利益又は損失(△)	20,026	215,127	235,154	△146,908	88,246

(注) 1 セグメント利益の調整額は、主に各報告セグメントに配分していない一般管理費(全社費用)であります。

2 セグメント利益又は損失(△)は四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第2四半期累計期間(平成27年2月1日から平成27年7月31日まで)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期 損益計算書 計上額 (注) 2
	シネマ・アミューズメント事業	不動産事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	767,827	876,084	1,643,911	—	1,643,911
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	767,827	876,084	1,643,911	—	1,643,911
セグメント利益又は損失(△)	13,975	217,811	231,787	△134,879	96,908

(注) 1 セグメント利益の調整額は、主に各報告セグメントに配分していない一般管理費(全社費用)であります。

2 セグメント利益又は損失(△)は四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。